

4) ドイツ⇒オーストリア 7月16日から7月19日

ロンドン LHR13:50(LH2475) ⇒ミュンヘン MUC16:35

ルフトハンザ LH2475 便のビジネスクラスはエコノミークラス3席を中央部空席にしたものにすぎず、ちょっと残念である。

機内にはルフトハンザビジネスクラスのタグが仰々しく張られているのも興ざめである。しかし、2時間半ほどのフライト時間ではそのようなものと納得はさせられるのだが。



ミュンヘン空港の到着ロビーは思いのほか閑散としていた。荷物を受け取り、少しする

と日本からの到着便があったらしく、某旅行会社の旗を持った添乗員とツアー客がぞろぞろと来た。石川啄木ではないがつつい日本語の会話に耳が傾く。空港からミュンヘン市内にはルフトハンザが運営するバスを利用した。チケットを往復で購入すると鉄道よりはるかに安くなる。ちょっとリッチな、といいながらも長年染みつけた貧乏、否、節約生活はなかなか抜けきらない。バスはミュンヘン駅のすぐ横に着く、空港に行く時もここから乗車するのでわかりやすい。

駅からホテルまでは徒歩で10分ちょっとの距離である。ミュンヘンでホテルをチョイスする条件もあまり日本人が利用しなさそうなホテルにした。駅周辺には多数のホテルがあるが、さら

に5分程道を進めると急にホテルは少なくなる。この辺だと日本の観光客はほとんど来ないであろう、そんなこじんまりしたホテルを選んだ。ホテルの外観は古風な趣を表しながら、部屋はいかにもドイツを表すかのように合理的な作りのイメージである。特に、トイレは水を流すのにどのようにするのかわからなかった。写真でも分かるよう



ミュンヘンのホテル

に、右側に小さな水栓がついているがどうもおかしい。正面に四角で大きな枕のようなものがついている。ドイツ人はトイレで昼寝でもするのであろうか？そこは合理的なドイツ人、ユニバーサルデザインともいえる大きなパネルがボタンであった。これが水を流すためのボタンであることが分かるには頭の上にはかなりの???が飛んだと思う。



ホテルの朝食 バイキング形式だがちょっとおしゃれにチョイス

7月17日、今日は旅の休息日に充てている。観光名所を惜しみなく回るのも一つの考え方だが、今回の旅は行くべき目的地では頑張り、その他の時は成り行きで動くことにしている。今日の当面の目標は明日ザルツブルクに行くための切符を購入しにミュンヘン駅に行くことである。それまでにミュンヘンの市街を少し歩いたがそのことは次々節のドイツ編に回す。

さて、ミュンヘン駅で翌日のザルツブルク行きの切符を購入する。鉄道でミュンヘンからザルツブルクに行くにはいくつかの切符が選択できる。ここはそれ、少しリッチな旅行を標榜しているので以前から思い切ってファーストクラスに乗ることに決めていた。もちろん、席も指定されているし、ザルツブルク駅では専用ラウンジも利用できるのである。購入する場所もファーストクラス専用の窓口ラインがあり他の多くの人



が並んでいるのを横目に比較的早く順番が回ってくる。例によってメモ書きしたザルツブルクと日時を見せて往復切符を購入する。しかし、である。古希の爺の無精ひげとよれたシャツ、数か国回ったジーパン姿が悪かったのかもしれない。ファーストクラスに本当に乗るのか3回は聞かれたと思う。金額的には新幹線で大阪から名古屋に行くくらいの金額だったように記憶しているが、例えば1日使えるバイエルンチケットを利用すると3,000円くらいで往復できるという。きっと親切に言ってくれたのであろうと思う。最初にドイツを訪問して四半世紀が経つ、その時から個人的にドイツ人には親しみがわくし、日本人に対して親切であるというイメージを持っている。

翌18日、ミュンヘン駅からザルツブルクに向かう。列車は9時半に出発、ザルツブルクには11時前に着く、RIX63列車の終点はブダペスト、午後4時ぐらいに着く。乗り過ごすといけない、異国の地にこっそり連れて行かれそうな気分である。



ファーストクラスの車内



ザルツブルク駅と似ひのとり

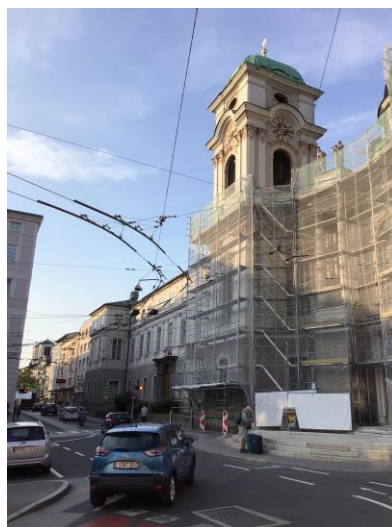
列車ではドイツの風景を見ながら、なんとなくアルプスの山々に近づいていると感じながら、思う間もなくあっという間にザルツブルクに到着した。余談ではあるが、最近近鉄が名阪特急として新型の車両を投入した。そのデザインを見てドイツで乗った列車によく似ていると感じた。

ザルツブルクはそんなに大きな町ではない、地図で見れば駅からホテルまで1kmほど、そう遠くはない距離で景観地域の途中にあり、街並みを見ながら歩いてゆくことにした。さて、事前に確認をしたホテルのあるべき場所にそれらしきホテルが見当たらない。ミュンヘンでも同じであったが、日本のようにホテル名を書いた看板のようなものはない。ここは、思い切って地図上で示されたホテルの位置にあるドアを叩いてみるしかない。重たいドアを押し開けるとサウンドオブミュージックで見かけたような景色があった。後で分かったことだが、このホテルはかつての修道院を改修してホテルにしたものであった。



ホテル名はドア右の白い小さなパネル

入って右側に受付があり、見るからにオーストリア人のかわいい女性が笑顔で挨拶をしてくれた。チェックイン手続きのとき分かりにくかったことを告げると、にっこり笑ってうなずいてくれた。歴史的景観を損なわない姿勢が素晴らしいと感じた。



ホテルの中庭（ここで朝食）と外観

予定では部屋を利用できるまでにはまだ時間があるため、荷物を預けて観光・散策に出かけることにしていた。この町では交通機関あるいは観光施設を利用・見学するのに、ザルツブルクカードがある。このホテルでも扱って1日券、2日券～があり、裏面に自筆で日時を記載してその時より所定の時間利用が可能になる。

高校生の時、高知の映画館にサウンドオブミュージックを見に行った。映画の出だし、空撮から The Sound of Music の音楽に乗ってマリアことジュリー・アンドリュースが歌うシーン、感動の一言である。あの時の感動は半世紀以上の時を超えても、いつかはこの撮影の地に行かなければと思っていた。そして、ザルツブルクは映画シーンの主な中心地である。シーンのすべての地を訪ねるわけにはいかないがせめてこの地をと考えていた。今まさに、かの地にいるのである。ここで、話は少しそれるが、サウンドオブミュージックの中で私の好きな曲は My Favorite Things 嫌なことや悲しいことがある時、好きなもののことを考えると気分が晴れる。素晴らしいと思うが・・・？ 意外と（70歳—17歳）年の人生の中で口ずさんだことは多いかもしれない。

さて、一方ザルツブルクは音楽の聖地でもある。クラシックにはあまり興味もない私だ



が、モーツアルトは知っている。ケッヘル525 アイネクライネナハトムジークはどこかで聞いて、アイネ・・・の名前には何の意味もなく言える。ホテルから徒歩1分でモーツアルトの家があるが横目で見ながら素早く通過して、ザルツァハ川に出る。対岸の景観地域にサウンドオブミュージックのロケ地が多い。

これから、サウンドオブミュージックツアーである。フェアヘブンのように、トレイルがあるとありがたいのだが、まずは、ホテルでもらったロケ地の案内が記されている地図を頼りに回ってみることにした。最初にスカイスペースに上ってみる。崖下にある近代美術館から、たぶん崖の内部をくりぬいたエレベーターで昇ることができる、もちろんザルツブルクカードが利用でき個別に切符



ザルツァハ川にかかるモーツアルト小橋からホーエンザルツブルク城

を購入することから比べればスムーズさは比べ物にならない。聞くところによるとスカイスペースもロケ地の一つのようにだが映画のシーンを思い出せず、地図にも記載がなく具体的な場所はわからなかったが、もう一度そう遠くない時期に映画を見ると確認できるかもしれない。ここからはザルツブルク市街が東北に一望でき、南東にはホーエンザルツブルク城が望める。この城はかつての塩の町ザルツブルクの繁栄を物語っており、今もランドマークとしてザルツブルク観光の中心になっているのではないだろうか。

マリアと子供たちがピクニックに行くシーンはこの町の各所で撮影をされている。その時の、Do-re-mi（ドレミの歌）を歌うシーンが各所にある。それらの場所の写真を並べてみた。ミラベル庭園の噴水、バラ？ツタ？のアーチ、ペガサスの泉など撮影当時と変わっていないように思えた。前のページの写真、モーツアルト小橋も撮影の場所である。カラヤン広場にある馬洗い池、馬車に乗って歌っていたシーンもあったような・・・？



ミラベル庭園

馬車に乗るシーンもあった





馬洗い池



聖ペーター僧院教会の墓地



ノンベルク修道院

マリアが実際にいたノンベルク修道院はホーエンザルツブルク城すぐ下の奥まったところにある、サウンドオブミュージックのロケもここで撮影されている。聖ペーター僧院教会の墓地は逃亡シーンで隠れた場所である。旧の街並みは、いわばホーエンザルツブルク城の城下町であろう。昔の面影を残した素晴らしい町である。ウインドショッピングでは、かわいいアルプスのハイジ衣装が目についた。カラヤン広場の近くにはサウンドオブミュージックのショップがあった。

サウンドオブミュージック
ミュージアム&ショップ



街並みとショップ

ザルツブルにはほぼ24時間いたことになる。所期の目的は達成したことになるが、ツアーを申し込めば郊外の撮影場所にも足が運べるという、これらを含め、もう少しディープなところも訪問したい気持ちもある。世界一周となると身構えるのが当たり前かもしれないが、「また来るよ。」の感じが強い、次は妻と一緒に来ようかと思う、が、いつものように「あなた一人で行ってらっしゃい。」であろう？

この町ともしばらくの別れである。サウンドオブミュージックのナチスから逃れるシーンには So Long Farewell が町の人たちとともに歌われていた。

翌日、早朝人気のないミラベル庭園を再度訪れ噴水を撮影、その後ホテルの中庭でゆったりとした朝食を取る。今日はこれからザルツブル発 11:00 の列車でミュンヘンに帰り、往復チケットを購入しているバスに乗り継ぎ空港へ、そしてイタリア・ローマに向かう。ザルツブル駅には市内ほぼ全域で運用されている環境に配慮されたトロリーバスで向かう。カードの有効時間は24時間なのでまだ時間内である。駅ではファーストクラスの特権、ラウンジを訪ねてみる。航空会社のラウンジとは違い、アルコール類はないがスナック類、果物がある。そうそう、ファーストクラスのミュンヘン・ザルツブルの往復料金は約16,000円であった。

最後にサウンドオブミュージックに使われた私のお気に入りの曲を記して、ザルツブルともしばらくのお別れである。

My Favorite Things I Have Confidence Do-Re-Mi Edelweiss

The Sound of Music

So Long Farewell ……



通りがかりの方に写真を撮ってもらった。